総務常任委員会資料
企画経営部秘書課

議案第 110 号
宝塚市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

資料１　任命しようとする者の活動内容や考え方、この者を任命しようとする理由等

１.任命しようとする者（石井氏）の主な活動内容や実績、考え方について、石井氏から提出された資料をもとに、主な部分をまとめた内容は以下のとおりです。

（１）宮城県南三陸町でのボランティア活動
東京都内で株式会社イングロスに勤務していた 2011 年 3 月、東日本大震災を経験し、仕事を通してできることの限界を痛感した。同年 4 月に会社を退職し、5 月に宮城県南三陸町でボランティア活動に参加した。家財探しの手伝いをする中で、被災者となった子どもたちの切実な声を聞いて、自身が高校生の頃、阪神・淡路大震災により校舎が全壊し、勉強ができなかったことを思い出し、「どんなことがあっても教育を止めてはいけない」と実感し教育業界への転身を決意した。

（２）進学塾ステージ塾長
2011 年 8 月に進学塾ステージの教室長、2 か月後に塾長となった。不登校やいじめに悩む子どもたちと接する機会があり、この 11 年間で未就学児から高校生まで 600 人を超える子どもや保護者と出会い、様々な問題と向き合う子どもたちの声なき声を聞き、伴走を続けることで多くの気づきを得ている。また、有名な大学で学ぶアルバイト講師と話す中で、将来に希望を持てないという言葉を聞くことが多く、塾に通う生徒たちも偏差値や成績といったもののために、苦しく辛い勉強をしているように感じる。「人間力」を磨き自分の幸せに向けて勉強をするには、「知識」だけでなく、「体験」という勉強も同じくらい必要だと痛感している。

（３）一般社団法人「楽笑」設立、代表理事
2017 年には、苦しく辛い勉強だけでなく、楽しく笑える勉強もしてほしいという願いを込めて、農作業体験学習の「楽笑」をスタート、翌年には、一般社団法人「楽笑」を設立し栽培や収穫、加工、販売まで、本格的な体験学習を開始した。農作業や定期的なお祭りイベントの開催を通して「誰かに喜んでもらえること」「誰かの役に立つこと」を学べるよう取り組んでいるが、子どもたちのアイデアを実現させる学びの場の不足を痛感している。知識と体験の両面で子どもたち一人ひとりが自分の力を発揮できる勉強の在り方を考えて実践している。

（４）ＰＴＡ役員・会長、まちづくり協議会役員、宝塚市子ども審議会委員
美座小学校ＰＴＡの役員を 1 年、会長を 2 年経験する中で、教員の多忙な状況や学校教育における、学校・保護者・地域の在り方について、もっと良い形があるのではないかと疑問に感じた。美座地域まちづくり協議会役員や、宝塚市子ども審議会委員を務めながら保護者としてだけではなく、地域の人間として学校教育のより良い形を作っていきたいと願って活動している。

（５）コロナ禍における学習機会の提供
2020 年 3 月、コロナ禍での学校休校により学ぶ場所が無くなった子どもたちの勉強場所として、学習塾を午前中に低価格で開校。また、不登校・行きしぶりの子どもたちが安心して勉強できるようにフリースクールを開始、不登校で昼夜逆転していても、進学や勉強の意思がある子どもたちにオンラインで

指導するなど、「どんな事があっても教育を止めてはいけない」という思いで学習機会の提供に努めた。今の学校教育が抱える、いじめや不登校という問題の根底には、子ども一人ひとりの異なる状況があり、その状況の多様化には、情報化社会の子どもたちが手にする情報量の増加も影響しているのではないかと感じている。そして、情報量の増加に伴い多種多様な価値観を持つ親子に対し、画一的ではなく選択できる教育の必要性を感じている。

２．石井氏は教育委員会が抱える課題（いじめ問題など）に、どのように取り組んでいくのかについて、石井氏からいただいたコメントは以下のとおりです。

「自分を大切に　人を大切に　ふるさと宝塚を大切にする人づくり」という基本目標に対して、具体的には「地域の力」「選択できる教育」「先生たちの負荷を減らすこと」が必要だと考えています。大上段の基本目標からは、画一的な教育の中、多種多様な価値観を持つ子どもたち一人ひとりが、「自尊心」を育む事は難しいのではないかという疑問が生じます。自尊心が育っていなければ、真に他者を尊重することはできません。また、小学・中学の９年、高校を含めて12年を宝塚で過ごした子どもたちが、学校生活の中で苦しく辛い思い出しか残せなかった時に、果たしてふるさとを大切に思うことができるのでしょうか。

私は、教育委員会が抱える課題の中で特にいじめと不登校に関して取り組みたいと考えています。まず、いじめについて、私はこれまで、いじめが原因で友人が命を絶ったという子や自ら被害に遭った子など、辛い思いを抱えた多くの子どもたちとともに過ごしてきました。このような問題の解決に教育委員会が挑み、学校でのフォローや対応の改善が行われたとしても、卒業した後はどうなるのでしょうか。ここには「地域の力」が必要だと考えます。そして、学校内で問題にさらされた子どもが速やかに他の場所で安心安全に勉強を続けることができるように「選択できる環境づくり」にも取り組んでいきたいと考えています。

そして、不登校については、原因は様々で、行き渋りや「学校に行きたくない」という子を含めると相当な数の子どもたちに目を向ける必要があります。私は、学校以外の学びの場づくりに取り組んできた中で、不登校として表面化した問題には、高校受験の画一的な制度がもたらすひずみがあると感じており、宝塚市の教育においては、子どもたちの個性を大切にし、多様な学びを実現できるよう取り組みたいと考えています。

また、いじめと不登校の問題は氷山の一角であり、表面化していない多くの潜在的な問題を抱える子どもたち一人ひとりに目を向けるために、教員の負荷を減らすことが急務であり、これにも取り組んでいきたいと考えています。

大半の大人は「子どもに幸せになってほしい」「子どものために」と考えています。共通の考えを持つ大人たち一人ひとりが信念のもと、それぞれの力を発揮することで「自分を大切に　人を大切に　ふるさと宝塚を大切にする人づくり」という教育目標に近づいていけると考えます。

３．石井氏を任命しようとする理由

石井氏は、被災地でのボランティア活動、ＰＴＡやまちづくり協議会など地域の立場での学校教育との関わり、進学塾や体験学習を通して子どもと関わる経験から、子どもたち一人ひとりが自分の力を発揮できる勉強の在り方を考え、実践してこられた。被災地でのボランティア活動の中で、勉強の機会を奪われた子どもたちの切実な声を聞き、「どんな事があっても教育を止めてはいけない」と決意し、コロナ禍において、フリースクールや不登校の子どもへのオンライン指導など、子ども一人ひとりの異なる状況を捉え、学習の機会を提供されている。このような経験で培われた子どもたちに向き合う姿勢や課題に対する考え方を教育委員の活動に生かし、審議の活性化に寄与されることが期待できる。